

第41回 なにわ人権展

12月1日(月)～2026年1月31日(土) ～未来を彩るすべての人が共に生きる社会～



魂のフルスイング

大阪凱旋上映

かば

KABA

上映会&監督作品解説

12月6日(土) 13:30～16:30

事前申込不要 入場無料

濱崎勲さん人権講演会、人権ポスター・標語の展示ほか **P4**



かわもと

たかひろ

川本貴弘さん

監督

単独インタビュー **P2・3**

なにわ人権展 特設ホームページ

開設時期

12月1日(月)～
2026年1月31日(土)

浪速区内小中学生の人権啓発作品、動画
やマンガ等も掲載。ぜひご覧ください。

[https://www.clab.
company/jinken
2025](https://www.clab.company/jinken2025)



主催: 浪速・港・西・大正区役所

協力: 浪速・港・西・大正地域「人権展」・

「人・愛・ふれあいプラザ」協力者会議

発行: 2025年11月

一般財団法人 大阪市コミュニティ協会

☎ 06-6125-3311 ✉ osaka.jinkenten@gmail.com

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

なにわ人権展は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています



監督・川本 貴弘さん 単独インタビュー

1980年代の西成区を舞台に被差別部落出身や在日外国人の生徒たちと向き合った中学教師たちを描いた映画「かば」。第41回なにわ人権展では同映画の上映会を実施し、「人権とはなにか」を考えます。

制作総指揮・原作・脚本・監督を務められた川本貴弘さんは今春47都道府県での上映を終え、約800市での上映に向けて始動したばかり。作品を通じて現代社会に伝えたい思いなどを伺いました。

あの橋を渡れば、日常があった 人Y人

—今回の作品には橋や川がよく出てきますが何か意図されたことはありますか？



実は映画の制作に関わる間、大浪橋の近くに拠点を構えて、当時の教員や地域住民の方に3年半でおよそ300人に話を伺いました。大阪という街の生活感、人々の哀愁、そして差別によって人生が隔てられる現実を象徴するものとして、川や橋は非常に重要なモチーフだったと思います。映画の中では「橋一本向こうに生まれたら」という場面表れています。

「悲惨な話は描かない」 映画に込めた思い 人Y人Y人Y人Y人Y人Y人

—この作品は、青春映画としての側面が強いように感じましたが？

この作品は、^{かば}蒲先生の話ではなく、いろいろな先生や生徒の話をまとめたものなんです。被差別部落や在日外国人といった多様な人権課題を聞きました。中には親から搾取される子どもの壮絶な話もあったのですが、なるべくそうした描写を映画の中には出さず、野球をしたり、先生と生徒が交流したりといった「普通の青春映画」として日常を描きました。



そうすることで「人権の映画を観ましょう」と構えさせるのではなく、映画を楽しんで観た後で、その背景に様々な人権問題が隠されていたことに気づいてもらいたいと思っています。

常に意識し、毎日考えること 人Y人Y人

—特に思い入れがある登場人物はいますか？

作品を観て、何を感じるかは人それぞれだと思っています。ただ、知らないことで無自覚に人を傷つけることや、自分がなぜ差別されるのか分からずに苦しむ当事者の存在を描くことで、「正しく知ること」の重要性について伝えていきたいと思っています。

「なにわ人権展」とは？

「人権展」開催への足跡

1983年2月21日、浪速区と大正区の境を流れる木津川に架かる大浪橋の橋梁に、差別落書きが書かれているのが市民の通報によって発見されました。

差別落書きが書かれていた大浪橋は車両や人の通行量も多く、人目につきやすい場所でした。このような場所にもかかわらず5ヶ所に差別落書きが書かれていたということは、計画的な犯行であり、内容も同和地区住民の「人格」のみならず「生存権」をも否定するもので、極めて悪質な人権侵害事件でした。

この大浪橋差別落書き事件を機に、同和問題に対する理解と認識を深めるため、1984年3月に「人権展」が、また1985年2月に「ミニ人権展」が開催されました。1985年12月には浪速、西、港、大正の4区役所と4区の人権啓発団体、浪速同和教育推進協議会、大阪西企業同和問題連絡会、労働組合など幅広い団体等で組織した「浪速・西・港・大正地域人権展実行委員会」により「'85なにわ人権展」が開催されて以降、毎年開催しています。その後、4区の人権に関する取組を一層推進するため、1994年9月には4区の人権啓発推進協議会で区民宣言が採択されました。2012年以降は、主催者を浪速・西・港・大正地域人権展実行委員会から4区役所とし『人権展』・『人・愛・ふれあいプラザ』協力者会議の協力を得て、毎年、人権展を開催しています。

今から約40年前に、浪速区と大正区の境に架かる橋で差別落書き事件が発生しました。この事件をきっかけに、地域住民による人権啓発活動が活発化し、毎年開催される「人権展」へと発展しました。よりよい社会をめざす人々の願いが込められた取組です。

人権の歴史

「人権」という考えが確立したのは、18世紀の西欧からでした。その当時の人権意識はアメリカの独立やフランス革命にみられるように、政治的平等の理念であり、自由権と参政権の確立が主張されていました。しかし、その当時の「人」には、女性や子ども、人種が異なる人等はいっていませんでした。

20世紀にはいると、社会保障や労働者の権利など各種の生存権や社会権の主張が見られます。第二次世界大戦が終わり、1948年の国連総会で「世界人権宣言」が採択されました。2度にわたる世界戦争による基本的人権の侵害を反省し、世界平和の維持と人権の尊重は一つのものとして考えることになりました。

1966年には、この世界人権宣言を受けて、法的に守るべき人権の内容を具体的に定めた「国際人権規約」が採択されました。10年後の1976年に発効実施されました。日本でも、この「規約」を1979年に批准しています。

—なぜ12月10日？—

1948年の国連総会で「世界人権宣言」が採択されたのが12月10日なので、「世界人権デー」と決まりました。1950年には、毎年12月10日に記念行事を行うことが決議されています。

人と人の距離

—この映画が話題になることで、また差別が広がるのではないかと不安の声もあったそうですが？

蒲先生やその当時の先生たちの取材を進めるにつれて、自分自身も、部落差別や在日、沖縄の差別について知ることになりました。包み隠さず表現しきって「向き合い」そこからこの問題を議論することが大切だという思いから、あえて当時の表現のままを取り入れた部分もあります。



「差別はダメだ」とただ言うだけでなく、どのような歴史的背景があり、当事者がどういう思いを抱えているのかを知ることが、人権問題を理解する第一歩にしたい、未来に生きる人々にこの問題が忘れられてしまわないようにすることも大切なのでは？と思います。

一人の人間としての姿勢



蒲先生が生徒の親に電話するシーンでは、先生も一人の人間であることを表現しました。

社会は変化し、人権問題も複雑化しています。変化する社会の中で、私たちは常

に「人としてどうあるべきか」を考え続けなければなりません。この映画が、そのきっかけになればと願っています。

「ずっと隣の駅から乗り降りしとった。橋渡ったらすぐやのに…私には長い橋やねん。」

蒲先生が、駅でばったり出会った卒業生の「由貴」。

最寄駅とは違う駅を使って通勤していました。なぜ、彼女は最寄駅を使わないのでしょうか。

社会に出てから差別に直面する。そんな現実が彼女たちと故郷を引き離すことがあります。そんな時に折れない心を育てる必要があったと何人もの先生から聞きました。

映画の中でも自分の出身地を知られないように降車駅を変えするというエピソードが出てきます。



「無理に学校来て勉強せえとは言わんけど、故郷のもんに触れて知るんは大切な事やと先生は思うんや。」

問題を起こして転校してきた「良太」。

新しい学校では、そのことを隠して新しい自分でいようと頑張っていました。売られた喧嘩に乗ってしまいます。蒲先生は、学校に行かず引きこもる彼の部屋を何度も訪れ、暴力に訴えるのではなく自分のルーツを知ること大切だと民族クラブのチラシを手渡します。



Story

阪神タイガースのリーグ制覇に日本中が沸く1985年の夏、蒲先生ら教師たちは問題のある生徒たちへの対応で手を焼いていた。登校拒否になった転校生。家庭を顧みない母親。酒浸りで在日朝鮮人の父と暮らし妹の世話をする女生徒。出身地を恋人に告白することができない卒業生。服役中の父親に代わって家庭を支える野球部主将。それぞれの事情を抱えた生徒たちと正面から向き合い、時には生徒の家庭へ強引に入りこんでまで彼らの生き方を模索する。

Introduction

実在した教師・蒲益男と生徒たち、同僚の教師たちとの出来事について取材を重ね、セリフの一つ一つにまで生の声にこだわったと川本監督が言うように、出自、偏見、校内暴力、すさんだ家庭…描かれる一つ一つのエピソードは迫力があり、子どもたち、教師たちの言葉はリアルで生々しい。笑って、泣けて、心温まる「かば」の物語は、2万人以上の協力を得て制作された。

川本 貴弘さん

「かば」制作総指揮・原作・脚本・監督

独学で映像制作を学び、フリーの映像ディレクターとして活動後、自主制作映画「ドラゴンマーケット」で初監督、第3回インディーズ・ムービー・フェスティバルで審査員特別賞を受賞。「秋桜残香」(2005)、「傘の下」(2012)を監督。



見えない壁・地図に刻まれた偏見

歴史的に作られた偏見は、言葉による差別や社会的排他として現在も存在し、無自覚に受け継がれています。歴史的背景を知り、無意識の差別にどう向き合うべきか、私たち一人ひとりが考える必要があります。

歴史的な偏見が現代を生きる人の価値や人格を否定する理由にはなりません。差別されるべき人間など、誰一人として存在しないのです。もし、いわれのない差別や偏見を感じ、あなたが困ったり、悲しい気持ちになったりしたとき、一人で抱え込む必要はありません。誰にでも、相談できる場所があります。

国連「世界人権宣言」▶



法務省ホームページ▶



HOT LINE

相談窓口へお気軽にご相談ください

■大阪市人権啓発・相談センター

自分自身または家族や友人などについての書き込みでお困りの場合：専門相談員による人権相談

☎ 06-6532-7830 FAX 06-6531-0666

月曜日～金曜日 9時～21時／日曜日・祝日 9時～17時30分(受付は終了時刻の30分前まで)

※土曜日、年末年始(12月29日～1月3日)は休業

ご自身のことではないけれども、差別的だと思われる書き込み等を発見した場合：人権啓発・相談センターの担当職員が対応

☎ 06-6532-7631 FAX 06-6532-7640

月曜日～金曜日 9時～17時30分 ※土日祝、年末年始(12月29日～1月3日)は休業

■インターネットで「同和地区」の情報を公開することについての対応策

平成30年12月に、「〇〇地区は同和地区であった(である)」などの情報をインターネットで公開することは、人権を守るために問題があるとされました。

このような情報は原則として削除する対応を取るべきだ、という方針が決まっています。

法務省 依命通知 同和地区 検索

■インターネットトラブル相談と対処方法(大阪府警察)

インターネットトラブル相談と対処方法でお困りの方は相談してください。また、警察庁ホームページでは、みなさまからのご相談に24時間対応できる自動相談システムを運用しています。

■子どもの人権110番 いじめなどの電話相談窓口(法務省)

☎ 0120-007-110 月曜日～金曜日 朝8時30分～夕方17時15分

LINEで相談できます▶



なにわ人権展イベント情報

会場

大阪祭典なにわ区民ホール(浪速区民センター) 浪速区稲荷2-4-3
大阪メトロ千日前線「桜川駅」徒歩約7分、JR大和路線「JR難波駅」徒歩約10分

話を聞いて知る高齢者の人権

高齢者らしさに縛らない関わり方

～高齢者の人権 権利擁護の視点から～

事前申込不要

入場無料

日時

12月5日(金)

開場13時 / 開演13時30分

席数 200席(当日先着順)

内容 高齢者の人権(権利擁護)

《講演者》

濱崎 勲さん / 株式会社ソーシャルケアリーチ・
株式会社ユビキタス 代表取締役



『関わる人を幸せに。』をモットーに、「その人らしい」より良い生活に向けて日々活動中。

映画を観て考える人権

映画「かば」上映・監督作品解説

事前申込不要

入場無料

日時

12月6日(土)

開場13時 / 開演13時30分
(16時30分終演予定)

席数 200席(当日先着順)

《講演者》

川本 貴弘さん / 「かば」制作総指揮・原作・脚本・監督
(プロフィールはインタビュー(3ページ)に掲載)



映画の詳しい内容については、2・3ページをご覧ください。

展示で考える人権

浪速区内の小中学生の人権ポスター・標語、 浪速区制100周年記念タイムカプセル封入物を展示

日時

12月5日(金)・6日(土)

13時30分～17時30分

人権について考えたことや感じたことを、こどもたちの優しくて豊かな感性でポスター・標語に表現してもらいました。「なにわ人権展」特設ホームページでもご覧いただけます。また、浪速区制100周年記念タイムカプセルに入っていた思い出も展示します。 <https://www.clab.company/jinken2025>



高齢者の人権を考える

～濱崎さんに聞きました～

自分らしく最後を迎えるための3箇条

1. 自分の生活を振り返る

自分がどんな人間か、どんな性格か、どんな暮らしを望んでいるのかを考えてみましょう。要介護状態になってからでは「どう暮らしてきたか」を伝えるのは難しくなります。

2. 地域の支援を調べる

「その時が来たら考える」では遅いので、早めの情報収集が重要です。本やインターネット、介護講座などを活用して、介護の基本を理解しておきましょう。

3. かかりつけを見つける

普段から地域の相談員と顔が見える関係を作っておくことは大切です。元気なうちに、地域包括支援センターなどと関係を作っておきましょう。

高齢者らしさに縛られず、自分らしさを大切にしたい。誰しも「できることなら介護など受けたくない」と思うのではないのでしょうか。自分らしさ、自分の権利を大切にする3つのポイントをお伝えします。

第41回なにわ人権展アンケート

みなさまからのご意見は、今後の人権啓発活動の向上につながります。ぜひお気軽にお聞かせください。

＼回答はカンタン便利なインターネットで！／

●スマホ・携帯・タブレット

右の二次元コードを読み取ってアクセス！



① サイトへアクセス



② アンケートに回答



③ 送信して完了！

●パソコン

下記URLを入力してアクセス！

<https://x.gd/TtmJQ>

アンケート期間：12月1日(月)～2026年1月31日(土)

あらゆる差別の早期撤廃と人権尊重のまちづくりをめざす

区民宣言

私たちは皆、平和なまちで、社会で、しあわせに暮らしたい、人間らしく生きたいと願っています。すべての人が、人間として尊ばれ、基本的人権が侵されることのない明るく住みよい社会の実現は、日本国憲法の精神であり、世界人権宣言の理念です。

いまや私たちは、国際的な人権尊重の潮流のなかで、新たに関西国際空港開港に伴って、急速な国際化時代を迎えようとしています。21世紀にむけた共同の社会づくりを進めるためには、世界的に人権の確立と法的整備が求められています。

しかしながら私たちのまわりでは、依然として部落差別をはじめ、障害者差別、女性差別、民族差別、難病など、さまざまな人権侵害が後を絶ちません。人権尊重のまちづくりは、区民一人ひとりの自覚はもとより、家庭や職場、さらには地域社会において、あらゆる差別を「しない、させない、許さない」断続的努力によって実現するものであり、このことが私たちみんなに求められています。

ここに部落差別をはじめ、あらゆる差別の撤廃と人権尊重のまちづくりをめざし、全力をあげて推進することを宣言します。

1994年9月9日

大阪市浪速区人権啓発推進協議会

大阪市港区人権啓発推進協議会

大阪市西区人権啓発推進協議会

大阪市大正区人権啓発推進協議会